

おお大勝利

平成 31 年度 / 令和元年度 山東サッカー部報第 8 号 (7 月 3 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y2A 前期最終節 明正戦はドロー

6 月 15 日 (土) Y2A 第 7 節すなわち前期最終節の山形明正戦が行われました。県総体から 1 週間経ったばかりのリーグ戦ですが、山東は残念ながら！その前の週 (6/2) に負けているので、公式戦が連続、というわけではない。ただ、前期中間考査 (6/17~19) の 1 週間のテスト休みがあり、あわただしかった。その**県総体は、尻上がりに調子を上げた羽黒の 2 連覇**に終わる。山東が敗れた鶴東は山形中央に負け、その山形中央も羽黒に完敗。沖縄 IH は羽黒の出場となりました。私は役職上、全国委員長会議出席のため沖縄に赴き、その足で山形県代表の応援に行きますが、羽黒にはぜひ頑張ってもらいたい。私が委員長してから、IH も選手権も、すべて初戦敗退。昨年などは後半残り 10 分で 2 対 0 で勝っているところからの 2 失点で、結局 PK 合戦負け (羽黒対明秀日立)。あれはショックだった。今年は期待の高かった昨年よりも注目度が低いかもしれませんが、そういうときにこそ、「なにくそ」と燃えてほしい。ともかく、**羽黒高校の皆さん、一戦必勝、頑張ってください**。

さて、山東対明正。場所は明正の人工芝。**清野総監督、工藤先輩、後藤報道局長のいつものお三方**はいつも通りいらっしゃる。**高橋コーチ、小池コーチ**もいつも通り。そして、宮城県北部より前乗りして**齋藤 GK コーチ**がいらっしゃって下さった。**イグラ**の雄姿を目に焼き付けたいとのことだろう。明正に対して、山東は 5 月に M リーグで勝っているものの、故障者がいた等々の理由で比較にならない。故障者と言え、こちらも入学以来出づっぱりの**2 年 CB ヤグチ**を故障で欠く。ヤグチの故障は、本人、チームにとって不幸なことだが、彼にとって少し距離を置いてサッカーを捉える良い機会になったかもしれない。復帰する際は心身のリフレッシュをしてきてもらいたい。ともかく、先月に明正に勝利していることはあまり参考にならない。厳しい勝負になると心の準備をして試合に臨む。

これまでも、前期最終節、多くの 3 年生にとって有終の美となる勝負に、山東なかなか結果が出せずに来ている。昨年も (米工)、一昨年も (東海) 負けて引退となった。私の記憶が間違いでなければ、県総体後も引退せず前期最終節まで 3 年生引退を引っ張るようになってから (山東第 64 回卒ヨシタカの代から)、これまで前期最終節は 2 勝 4 敗。もちろん力不足の戦いもあったが、県総体で燃え尽きテスト休みで練習があまりできずフワフワした雰囲気でも試合に臨んだり、学校祭の準備でサッカーに集中できなかったり、内容的にも不甲斐ない試合が多かった。その点、今年は県総体からあまり日が経っておらず、テスト休み期間中の試合¹ということで特別に数日練習もできた。

¹ テスト休み後の試合だと、まるまる 10 日間ほど休んでから試合に臨まなければならない。

試合が始まると、**手厚く攻める明正にしのご山東**という戦い。明正は個々にスキルがあるし、ボールをはたいてすぐ受けるボールへの関わりがある。パスをして「あとはお任せ」ではなく、パスが、次に自分がボールを受けるための経路のパスになっている。すなわち、**パスを出す行為と次にパスを受けるために動く行為が連続しており、次のパスを受けるためのパスになっている**。対して山東、パスして、少し間があって「あっ動かなきゃ」と自分に言い聞かせてから、動いている²。この間はほんのゼロコンマ何秒でしかないが、パスの段階で次にもらうイメージあるのとないのとは、雲泥の差がある。明正の選手のスキル³、そしてボールへの関わりはお手本。ただ、山東も、球際での集中、粘り強さがあり、Mリーグ同様、セットプレーで虎視眈々と一発狙っている。また「**これで出し切るんだ**」という覚悟も感じられ、いつも以上にピッチ内で声が出ている。アキシンの膝も何とか持ちそう。前半両チームスコアレス。

後半もボールポゼッションでは明正。決定機も明正の方が多かった。「助かった～」と安堵するシーン複数回あった。DFが必死で戻って体を張っていなければ複数失点していたことでしょう。ディフェンスにおける集中はあった。攻撃では、ものすごい惜しいシュートを放った記憶はない。シュート手前のプレーで、トラップ・パスが乱れ、チャンスを逃すことが多かった。「スキルの差を得点差にしない粘り強いサッカー」という山東サッカー部に確かにある一伝統のみ強調され、「**フィジカルの後れをスキルと頭脳で跳ね返す**」という山東サッカーの真の伝統は、私の指導において追求が中途半端だったのは否めない。いずれにせよ、自信をもってボールを扱うことができないため、過剰に慌ててコントロールが乱れるシーン多し。一生懸命ボールを拾いアタッキングサード（相手ゴール前）に入っても、決定的な仕事ができない。試合終盤、山東の攻撃に勢いがあり、特に途中出場の**2年7タル**がドリブルで抜け出しシュートまでいったシーンにはベンチ・応援席とも沸きました。ボールは大きくゴールから外れ、「シュートでは技術、体力、精神力すべてが試される」ことから考えて、かなりの力不足を感じました。結局試合は両チーム決め手を欠き、前後半合わせスコアレスドロー。**3年生が戦う1度目の前期最終節は、初めての引き分け**となりました。勝てなかったとも言えるが、明正のスキルに後手を踏むシーンが多かったことを考えると、悔しいことですが率直に負けなくてよかった試合でした。

これでY2A前期終了。3勝1敗3分けの勝ち点12。残留するに十分な勝ち点は上げられませんでした。新チーム自らが残留を勝ち取らなければならないということですね。後期の戦いによっては昇格の目も断たれたわけではないですが、まずは足元をしっかりと見て、残留目指して頑張ります。次節は新チーム初戦。羽黒Bからの対戦です。応援よろしくをお願いします。

7月6日（土）Y2A第8節 羽黒B戦 @山形明正 12:00～

東北選手権 山形で開催

Y2A 山形明正戦の翌週、6月21日～24日の日程で東北選手権があり、山形開催ということで山東も運営に協力させていただきました。山東が運営した県総合運動公園サブグラ

² または顧問から「すぐ動け」と檄を飛ばされてから動く。

³ スキルということ言うと、この試合、山東の選手は悲しいくらいに明正の選手にダブルタッチでかわされていました。突進する牛が闘牛士にひらりとかわされんばかりに。

ウンドでは、青森山田の試合があり、山東の選手たちは青森山田の勝負への迫力を学んだことと思います。個人的には、優勝した聖和学園の試合を山東の選手に（生で）観てもらいたかった。山東が全国に名だたるドリブル軍団聖和のサッカーを目指しているわけではありませんが、**聖和の選手のプレーからは《ボールと遊ぶ喜び》が感じられ、「そうだな～、サッカー選手／小僧たる者、こうでなきゃな～」と思わせる**。誰しも、サッカーを始めた当初はボールに触れる喜びがあり、パスしてもまたすぐボールをもらいたがっていたはずなのに、いつの間にかボールに触ることに（失うことへの／失って評価が下がることへの）怖れを抱くようになり、関わりが薄くなる。そんなプレーを観ていると、「サッカーしてて楽しいのかな？」と疑いたくなる。聖和のプレーからはサッカー選手の原点として忘れてはいけない姿勢を学ばせてもらいました⁴。また聖和は、ボールを失ったときの切り替えも速く、ディフェンスの意識が高かったことも学ぶべき点でした。対して、決勝で聖和に惜しくも負けた（1対2）青森第二代表の八戸学院野辺地西は、聖和とはスタイルが異なりこそすれ、連動したディフェンス、ゴール前での的確な守備、ボランチの攻守にわたる働き、サイドアタッカーのキレなど、見どころの多いチームであり、同県に青森山田という不動の王者がいるので全国の舞台に立てずにいますが、青森で選手はしっかり育成されていることを示しました。いずれにせよ、東北選手権は、山形県、山形東にとって良い刺激となりました。

3年引退式行われる

6月19日（水）前期中間考査最終日に、3年生の引退のミーティングが開かれました。後輩へ託すそれぞれの気持ちを3年生は全員述べてくれました。以下はその要点です（紹介の順番はスピーチを述べた順番の通り）。

ダイキ

勉強にせよ部活にせよ、夏以降の使い方が重要になってくる。自分は昨年のリーグ戦後期の使い方に後悔を残している。県総体まではあつという間なので、部活も勉強も最終目標を思い描いてほしい。

アキシン

まずは怪我をしないこと。自分のプレーの改善をはかることができず治療ばかりで、進歩できない。できないことには必ず原因があるので、自分ができないことの原因を突き詰め、原因のそのまた原因を探る分析に基づき、向上をはかることが大切。

イグラ

去年ヤマサンが言っていた「自分の武器／強みを持つ」という言葉を一年間意識してきた。自分の場合はキックだと思い、筋トレに励んだ。高校1年の8月末とGK始めるのが遅く壁を感じたが、悩んでも一歩踏み出してよかった。

ウエノ

⁴ ただし、山東の選手たちの運営した会場で聖和は試合をしていないため、彼らのプレーを観ることができなかったのは、残念でした。

山東サッカー部にあこがれて入部した。決まった戦術がなかったが、相手を観て対応する重要性を学んだ。目標とする選手を決め、試合観戦でサッカーを学び、遊び心をもってプレーしてほしい（自分は遊び心持ち過ぎた）。きついとき笑顔を忘れずに。

アヤ

早く1年マネージャーを見つけること。マネがひとりの時期があったが、助けてくれる部員のおかげで切り抜けた。現2年生に助けられた。上でもなく下でもなく、現3年生のマネージャーで良かった。大人になってから糧になる日々だった。思い出は一生の宝物。

17

サッカーを楽しむことが基本だが、そのためにはスキルUPが欠かせない。また、時間を守るなどのチームとしてやるべきことをやっていくことも、楽しむためには重要。その点、自分たちには後悔があるので、後輩は全員で取り組んでほしい。

オサ

自分がミスって蹴ったボールを拾いに行く意識を2年から3年にかけて高めた。挫折はあったが、自分の向上のために気持ち折れずに努力してきた。自分がどうなりたいかの地図を描けば後は実行するだけ。素直じゃない自分の性格に反省はあるが、譲れない「我」は必要。自分は引退せず選手権まで残るが、新チームの作る雰囲気の中で頑張りたい。

タケちゃん

夏合宿の月山登山では「最初肺で走り後半は筋肉開放」というキムタク理論で頑張っていた。入部においても活動においても自分には中途半端な気持ちがあったが、仲間がいたから頑張れた。サッカーについて学ぶと試したいプレーが出てくる。悔しさを忘れずに。

ニコラス

サッカーIQを高めるとサッカーをより楽しめる。いろいろなポジションをやることは、様々な角度からサッカーを捉えることができるようになる。新チームでは練習を指揮するグラウンドマネージャーをしっかり盛り立てられるのか、心配なところがある。自分は山東に入って変なあだ名がついたが、慣れると結構しっくりくるので、1年生心配なく。

以上の通り、9名と少ない部員の学年でしたが、サッカーへの熱、後輩への思いがよく表れた引退式でした。主将のニコラスの発言にもみられるように、ユーモアもありました。10月の選手権予選まで残るのは、唯一オサだけとなりましたが、山東サッカー部としての活動は、OB戦(山東サッカーフェスティバル——例年8月第一土曜日⇒今年は8月3日)、納会を含めまだ続きます。また、卒業してからも、OBOGとしての「活動」は続きます。先輩方、後輩の活動をしっかり見守って下さいね。